

高松港朝日地区国際物流ターミナル整備事業

事業再評価 説明資料 (要点審議)

平成29年12月5日



国土交通省 四国地方整備局

(1) 事業の目的・必要性

国際物流ターミナルを整備することにより、船舶の大型化への対応やふ頭再編により輸送効率化を図り、あわせて岸壁の耐震強化により大規模地震時の海上からの緊急物資輸送を確保する。

- ①船舶の大型化への対応 ②貨物輸送の効率化 ③震災時における緊急物資等の輸送の確保

(2) 事業内容

事業期間: H17年度～**H32年度**

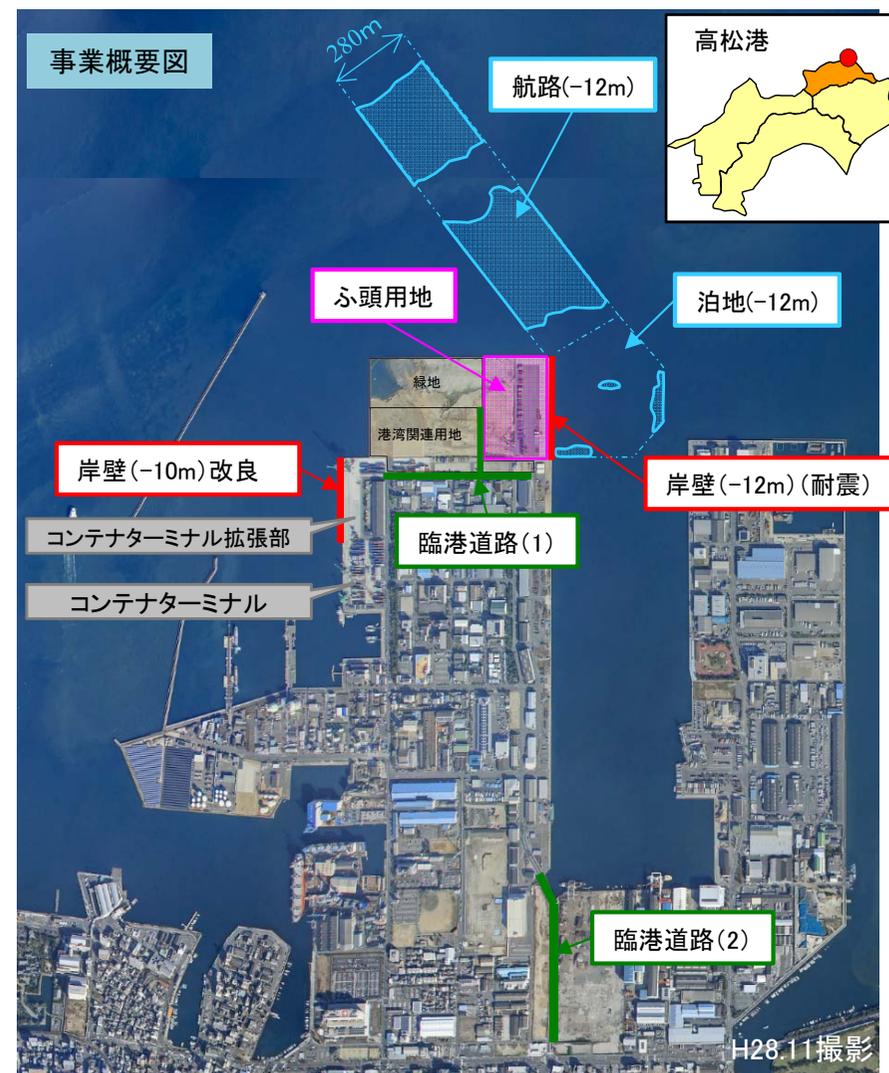
事業費: **138億円**

構成施設: 岸壁(水深12m)(耐震)、
航路(水深12m)、泊地(水深12m)、
臨港道路、岸壁(水深10m)改良、
ふ頭用地等

前回評価時 (H26) からの変更

項目	前回評価時 (H26)	今回評価時 (H29)
事業費	131億円	138億円
事業期間	H17～H31	H17～ H32

変更



(3) 需要の見込み

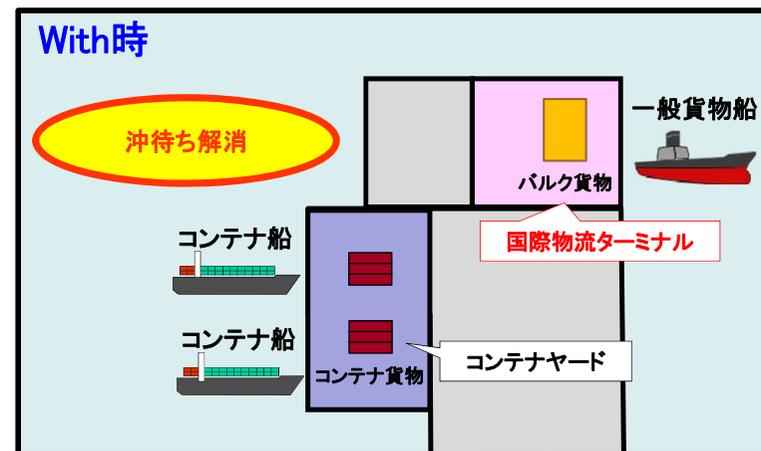
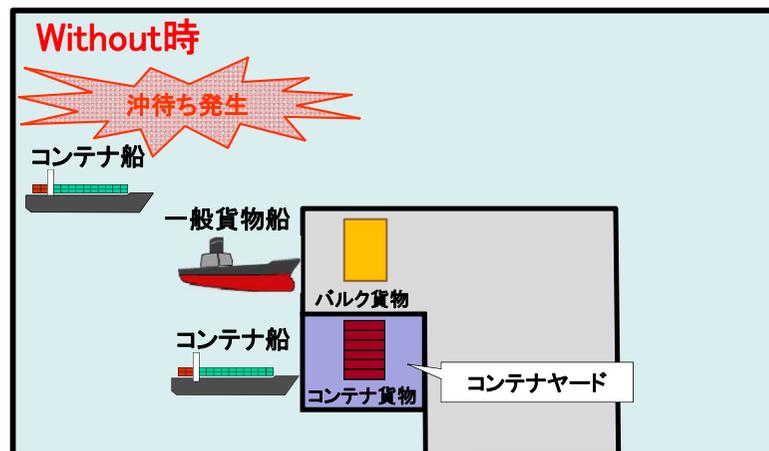
- ・「輸送コストの削減」に関する需要(H33予測取扱貨物量)
 コンテナ貨物:3.8万TEU/年 (H26再評価時と変化なし)
 バルク貨物 :3.9万トン/年 (H26再評価時と変化なし)
- ・震災時における輸送コストの削減に関する需要(H26再評価時と変化なし)
 (緊急物資を必要とする想定被災人口:13千人)

(4) 投資効果

- ・**全体事業費:138億円**(H26再評価時:131億円)
 主な理由:**浚渫土砂の土捨場所が変更となり、遠距離土捨てとなったため。**
 - ・便益※1 :事業全体171億円 残事業51億円(H26再評価時)
 - ・費用※2 :事業全体146億円 残事業23億円(H26再評価時)
 - ・費用便益比:事業全体1.2 残事業2.3 (H26再評価時)
- ※1. 金額は、完成後50年間の便益額として現在価値化した数値。
 ※2. 基準年における現在価値化した数値。

【輸送コストの削減（コンテナ貨物の輸送効率化）】

本プロジェクトの実施により、コンテナバースが2バース整備されるため、沖待ちの解消が図られる。



(5) 事業の進捗見込み等

- ・事業進捗率:約85% 平成29年度末
(H26再評価時:約82% 平成26年度末)
- ・平成32年度完了に向けて事業を推進中
(H26再評価時:H31年度完了予定)
主な理由:浚渫土砂の土捨場所の変更に伴い、
遠距離土捨てとなり施工に時間を要するため。
- ・平成24年度に岸壁(水深12m)(耐震)を暫定(水深10m)で供用開始

(6) 県知事等の意見

- ・事業継続について異議はありません。

(7) 対応方針 (原案)

- ・事業継続

